

為替相場展望

2026年7月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/exchange/>

目次

- ◆ドル円相場見通し……p. 2
- ◆ユーロ相場見通し……p. 3
- ◆トピック ……………p. 4

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 <p>経済・政策情報メールマガジン</p>	 <p>日本総研調査部X (旧Twitter)</p>	 <p>日本総研YouTube</p>

調査部 マクロ経済研究センター（米欧経済グループ）

研究員 西村 朱央（ Tel: 080-2404-2822 Mail : nishimura.akira@jri.co.jp ）

- ◆本資料は2026年7月9日9：00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

◆ドル円相場回顧

6月のドル円相場は、ドル高・円安が進行し、月末には162円台と1986年以来の高水準を記録。米国では、5月の雇用統計が市場予想を上回り、景気の底堅さが確認されたほか、F R BがF O M Cでタカ派的な姿勢を示したこともドル高圧力に。

一方、わが国では、日銀が6月の金融政策決定会合で政策金利を引き上げたものの、この利上げは市場では既に織り込まれていたことから、円高圧力は限定的。さらに、政府は「骨太方針」原案で、適切な金融政策運営の重要性や日銀との緊密な連携について言及。市場では利上げペースが緩やかになるとの見方が浮上したことも円安圧力の一因に。

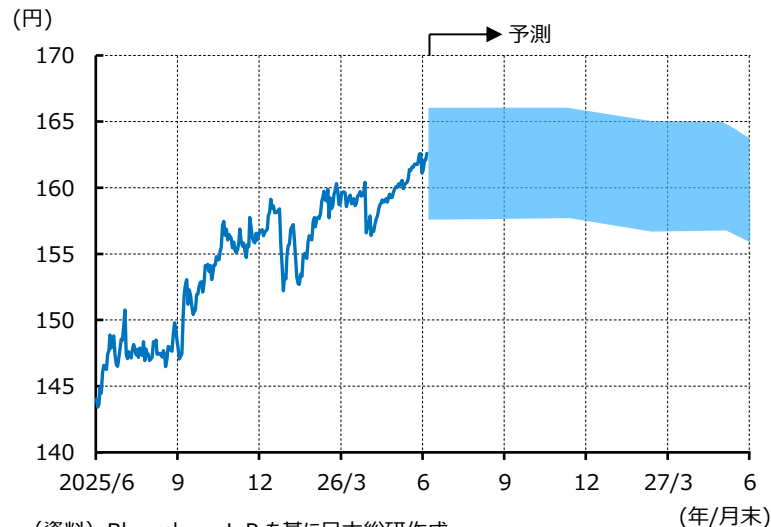
7月入り後は一時160円台半ばへ円安が進行。F R B議長によるハト派的な発言や、6月の米国の雇用統計が市場予想を下回ったため、利上げ観測が後退したことが背景。

◆今後の見通し

当面のドル円相場は、横ばい圏で推移する見通し。資源価格の高止まりに伴うわが国の貿易赤字の拡大が、実需面から円を下押しする見込み。一方、政府・日銀による為替介入への警戒感が、円の下値を一定程度抑える見込み。

年終盤にかけて、徐々にドル安・円高が進行する見通し。F R Bが政策金利を据え置く一方、日銀が緩やかなペースで利上げを続けると予想。米日金利差の縮小がドル安・円高要因に。

ドル円相場見通し

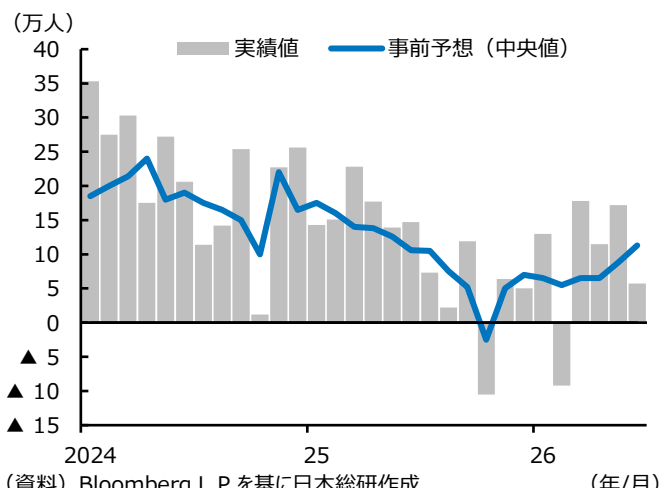


(資料) Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

	2026年			2027年	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
期中平均	159	161	161	160	159
(高値)	162.55	166	166	165	164
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	156.39	158	158	157	156

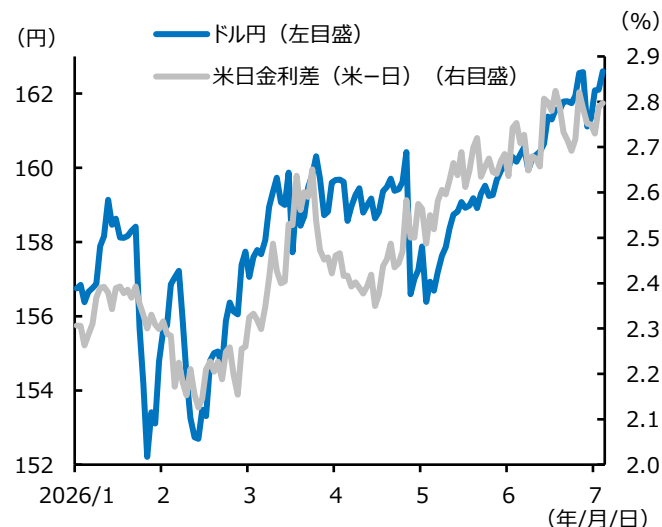
予測

米国の非農業部門雇用者数の事前予想と実績



(資料) Bloomberg L.P.を基に日本総研作成
(注) 予測値は、エコノミストによる事前予想の値の中央値。

ドル円相場と米日2年債金利差



(資料) Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

◆ユーロ相場回顧

6月のユーロドル相場は、下旬にかけて一時1.13ドル台前半へユーロ安・ドル高が進行。米国では、雇用統計が市場予想を上回ったほか、インフレへの警戒感を強めるF R Bが利上げに転じるとの見方が強まったことがドル高要因に。ユーロ圏では、経済指標が市場予想を下回ったことにより、E C Bの追加利上げ観測がやや後退したことがユーロ安圧力に。

7月入り後は、F R B議長のハト派的な発言などを背景に、1.14ドル台前半へドルが下落。

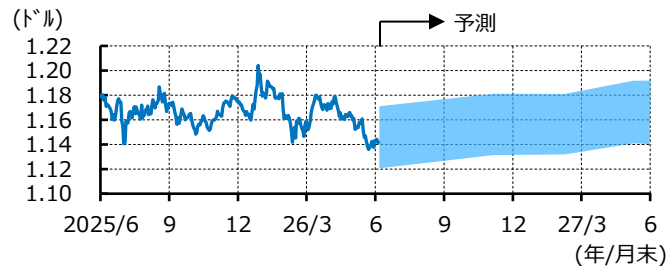
対円では、下旬にかけて一時183円台前半へユーロ安・円高が進行。軟調なユーロ圏経済指標やE C B総裁によるハト派的な発言が背景。その後、月末には185円台後半へ円安が進行。日本政府の「骨太方針」原案を巡る報道を受けて、日銀の早期利上げ観測が後退したことが背景。

◆今後の見通し

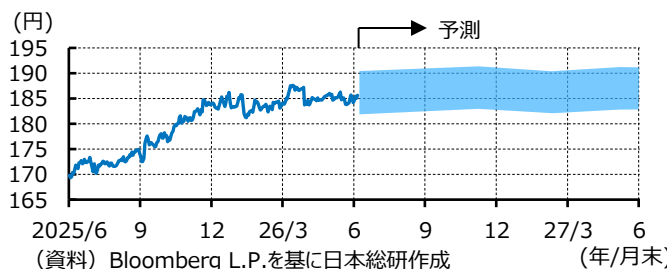
当面のユーロドル相場は、緩やかなユーロ高基調で推移する見込み。中東情勢の混乱を受けた資源価格の高止まりはユーロ圏景気の下押し要因となるものの、インフレ率は政策目標を上回って推移しており、E C Bは追加利上げを継続する予想。一方、F R Bは当面政策金利を据え置くとみられ、欧米金利差の縮小がユーロを押し上げる公算。

対円では、横ばい圏で推移する見通し。E C B、日銀ともにインフレへの警戒感を背景に、利上げを継続すると予想されることが背景。

ユーロ相場見通し



	2026年			2027年	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
期中平均	1.16	1.15	1.16	1.16	1.17
(高値)	1.180	1.17	1.18	1.18	1.19
レンジ	∩	∩	∩	∩	∩
(安値)	1.136	1.12	1.13	1.13	1.14

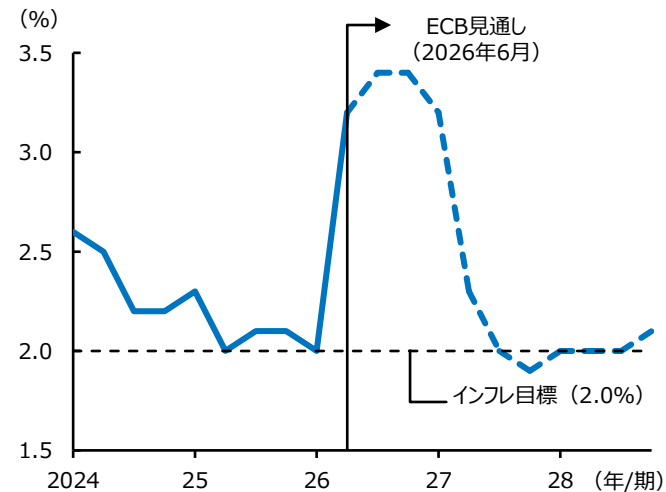


	2026年			2027年	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
期中平均	185.33	185	187	186	186
(高値)	187.60	190	192	191	191
レンジ	∩	∩	∩	∩	∩
(安値)	183.70	182	184	183	183

米国・ユーロ圏の経済サプライズ指数



ユーロ圏の消費者物価指数（前年比）と見通し



◆FRBの役割を見直し、使命遂行に注力

米国では、5月下旬にケビン・ウォーシュ氏がFRB議長に就任。同氏はリーマンショック以降に拡大したFRBの役割を見直し、伝統的な金融政策への回帰を志向。主な政策の柱は以下3点。

第一に、FRBの資産規模の縮小。同氏はこれまでFRBが実施してきた大規模な資産購入が、金融政策と財政政策との境界をあいまいにし、中銀の独立性や市場規律を損なう恐れがあると指摘。第二に、市場との過度な対話の見直し。とりわけフォワードガイダンスは市場参加者の価格発見機能を弱めるとして慎重姿勢。第三に、本来的な使命への集中。法的責務の物価安定と雇用最大化に注力すべきとし、他の政策課題への関与には否定的。

◆為替の変動幅が拡大する可能性

こうした政策運営が為替に及ぼす影響は一様ではないものの、仮に市場予想を上回る資産規模の縮小が実施される場合、長期金利の上昇を通じてドル高圧力となる可能性。FRBの総資産はGDP比でなおリーマンショック前を大きく上回り、縮小の余地あり。

また、フォワードガイダンスの活用が限定される場合、市場が自ら政策方針を判断する必要が高まり、為替の変動幅が拡大する可能性。FOMC参加者の政策金利見通しは市場の予想形成における重要な手がかりとなっただけに、その見直しは市場の不確実性を高める可能性。

ウォーシュ議長が示す金融政策のスタンス

① 資産規模の縮小

- 保有資産の圧縮
- 金利中心の政策
- 財政政策との境界の明確化

② 市場との過度な対話の見直し

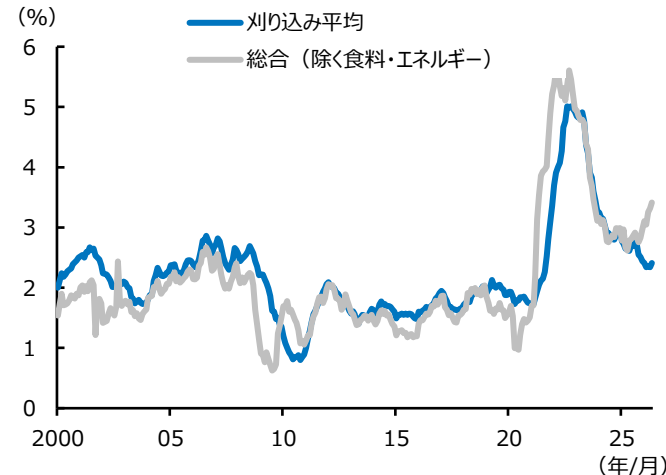
- フォワードレートの見直し
- 情報発信の簡素化（声明文・記者会見）

③ 本来的な使命への集中

- 物価安定と雇用最大化に専念
- 気候変動や格差などへの関与を否定
- 基調的インフレの重視

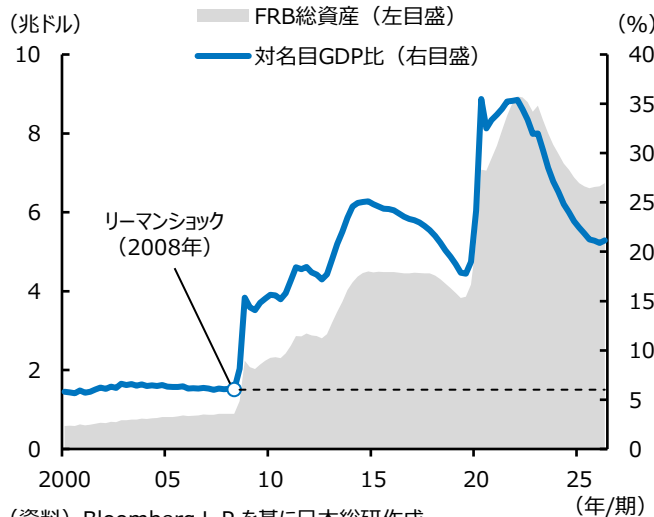
（資料）ウォーシュ氏による講演・発言を基に日本総研作成

米国のPCEデフレーター



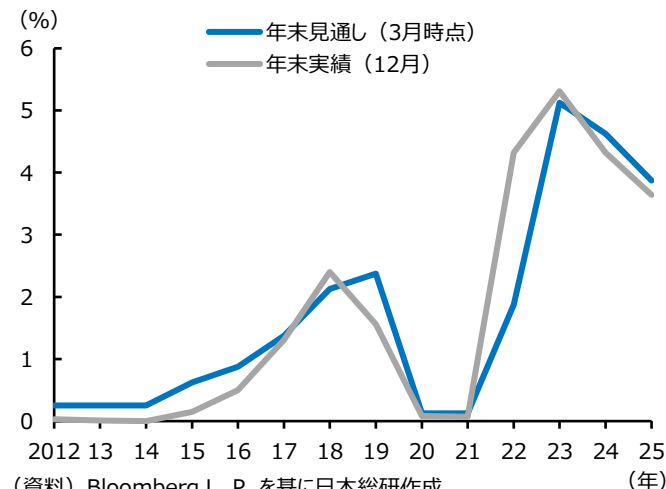
（資料）Federal Reserve Bank of Dallas, Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

FRBの総資産額と対GDP比率



（資料）Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

FOMCによる政策金利の見通しと実績値



（資料）Bloomberg L.P.を基に日本総研作成
（注）2012年は4月公表、20年は6月公表の政策金利見通しを参照。

公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

- ▶ [【2026～27年欧州経済見通し】レジリエンスを高め、持ち直す欧州経済 ～ 対米関係・域内政治の混乱による政策停滞がリスク ～](#) 梶野裕貴
立石宗一郎 6月30日
- ▶ [【2026～27年米国経済見通し】AIが主導する米国の景気回復と格差拡大～リスクは投資腰折れと分断の加速～](#) 森田一至 6月30日
- ▶ [【2026～27年世界経済見通し】底堅い成長が続く世界経済～リスクは地経学的分断とAI過剰投資～](#) 若林厚仁 6月30日
- ▶ [米国独立250周年：格差と分断を抱えながらも発展を続ける超大国](#) 石川智久 6月22日
- ▶ [AnthropicのMythos級AIモデルに対する米国政府の規制が意味するもの](#) 福田直之 6月15日
- ▶ [米・イラン紛争を踏まえ、今後の原油市場をどうみるか — シナリオ別の生産・価格見通し —](#) 梶野裕貴 6月8日
- ▶ [英国の財政規律、地方選挙を受けて高まる緩和圧力—「ドーマー条件」が満たされにくいなか、金利上昇・ポンド安が進むリスク—](#) ジェイムズ・パターソン 6月1日
- ▶ [日本と欧州が直面する「同盟国のトリレンマ」— 日本も辿る欧州の道、双方の協調で負担軽減を —](#) 立石宗一郎
中井勇良
西岡慎一 5月26日